

研究専攻（専門領域）		文化構造研究専攻（ドイツ文化）		学籍番号	07CS008
氏名	幸塚 久美子	ローマ字	KOZUKA Kumiko	国籍 (留学生)	
修士学位論文名		『グリム童話』における変身について			
提出年月日		2009年1月13日		指導教員	安達 忠夫
体裁 (論文)		85項(1項文字数1064字)		言語	日本語
別冊添付資料等					
キーワード		グリム童話 メルヒェン 変身 分身 鏡像 エディプスの葛藤			
<p>「仮面ライダー」や「ひみつのアッコちゃん」等、世代によって挙げられるタイトルは違うものの、子供の頃に夢中になったテレビ番組や絵本には、いつも変身ヒーローがいた。それは人間誰しも、「自分以外の何者かになりたい、今の自分とは違う存在になりたい」という変身願望があるからに他ならない。世界で1番知られているメルヒェン集『グリム童話集』にも、そんな変身にまつわる物語が数多く蒐集されている。しかし、そこに登場する変身は、どれもが登場人物達に夢は与えてくれるような親切な類のものではない。それでは、『グリム童話集』のメルヒェンにおける変身とは、どのようなものなのだろうか。本研究はそんな疑問をもとに、メルヒェンにおける変身の役割、また与える影響について研究することに始まった。まず始めに、『グリム童話集』に収録されている聖者伝説を除くメルヒェン200話を対象に、変身のモチーフが含まれるメルヒェンを割り出した。次に、割り出したメルヒェンを外面的な変身と内面的な変身の2種類に分別し、外面的な変身では『グリム童話集』の中でも冒頭を飾る一番有名な変身物語である KHM1『カエルの王様、または鉄のハインリヒ』、内面的な変身では一見、変身とは無関係に思われるが変身の1つである“分身”の要素を含む KHM60『二人兄弟』を取り上げた。そして主に、変身した理由、物語の中で変身の担っている役割、何を象徴しているのか、この3点について答えを見出すべく、先の研究者の方々が取り組まれてきた心理学的解釈、民俗学・文献学・文芸学的解釈と共に、『グリム童話集』に収録されている他のメルヒェンや『美女と野獣』、カフカの『変身』、『プラークの大学生』等の他の芸術作品を参考にし、時には比較しながら、考察を進めた。本研究から導き出した結論は、KHM1『カエルの王様、または鉄のハインリヒ』、KHM60『二人兄弟』のどちらのメルヒェンにおいても、「変身は成長と深く関係している」ということであった。変身には、精神的な成長・身体的な成長の2つを促す作用があり、その対象は物語の登場人物だけではなく、読み手・聞き手である我々も含まれている。これはメルヒェンに限らず、他の変身のモチーフを扱う芸術作品にも、共通している。</p>					